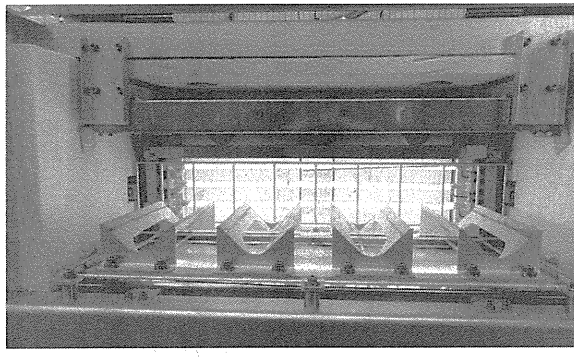


小型工業炉を高出力化

YAC 国際電熱 安全性・競争力向上

【立川】YAC国際電熱（東京都昭島市、風間健太郎社長、042・546・9211）は、電気ヒーターを独自開発し、高出力化した汎用小型工業炉を発売した。金型を効率的に予備加熱すること、加工対象物（ワーク）との温度差を少なくした。プレスや鋳造時の捨て打ちを抑える。鉄鋼、自動車、電子部品分野などに提案する。消費税抜きの価格は、450万～500万円。初年度10台の販売を目指す。

一つの炉内には加熱対象の金型などを囲むように、平面形状の電気ヒーターユニットを3台設置。電気ヒーターは、また温度が急激に上昇した際、通電しなくなる安全機能も備え、炉に比較して、安全・コスト面での優位性や加熱対象がすくないといった利点をアピールする。



昇した際、通電しなくなる安全機能も備え、炉に比較して、安全・コスト面での優位性や加熱対象がすくないといった利点をアピールする。出力は最大30キロワット、発熱エレメントの最高温度は1400度C、加熱対象の汎用小型工業炉の内部

高温度は900度Cに達する。大きさは幅1550ミリ×高さ840ミリ×奥行き670ミリ。製作納期は3カ月で、安全機能は各社の規格に合わせカスタマイズできる。YAC国際電熱は、ワイエイシイホールディングスの電子機器ビジネスユニットを構成する1社。

金属3Dプリンター導入

ダイイチ・新分野・試作に活用

【水戸】ダイイチ・29・303・787 ファブ・テック（水戸8）は、金属3Dプリンターを本社に導入し、数年内に技術を確認

市、金森良社長、0ンター（写真）を本社に導入し、数年内に技術を確認

材質はSU316に対応する。投資額は約4500万円。国の「ものづくり・商業サービス生産性向上促進補助金（ものづくり補助金）」を活用した。ダイイチ・ファブ・

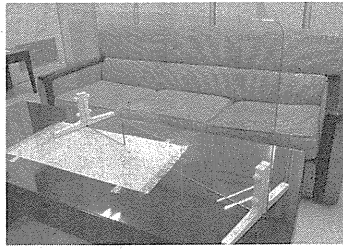
都内で最先端技術・リアルタイムデータ活用サービス

都が仕組み公募

東京都は最先端技術やリアルタイムデータなどを活用したサービスを実施し、将来的な地域への横展開も視野に入れたモデルとなるプロジェクトの公募を始めた。優れた取り組みを3件程度選定し、プロジェクト実施の費用を都が補助する。補助の上限額は4000万円、補助率は2分の1以内。期間は最大で3年間。地域のリアルタイムデータなどを活用した複数領域横断型サービスを構築し、エリア内におけるデータの集積・活用・連携の仕組みを構築。スタートアップなどの技術を活用し、持続可能な推進体制やビジネスモデルを検討する。対象は都市再生

飛沫よけ組み立て式

スぺリアパーティション販売



【山形】スぺリア（山形県河北町、井上善博社長、0237・72・2220）は、飛沫感染防止パーティション。飛沫感染防止パーティション。

材質は汎用樹脂（透明塩ビ板）、ネジでの組み立て式を採用。基本は机向け（幅90センチ×高さ49センチ）とカウンタ向け（幅180センチ×高さ49センチ）の2タイプを用意。価格はカウンター向けで1万6000円（消費税抜き）。

今後、同社は地元の治療機関や飲食店向けに新製品を開発する。宇都宮に研究開発

立川駅北口新街区に「ソラノホテル」開業

【立川】立飛ホールディングス（HD、東業セレクトで、村山



トが行う。新型コロナウィルスの影響で、当初予定の5月12日から開業を延期していた。隣接する。面電